

# 三岳登山マップ

**三岳参り(みたけまい)**  
江戸時代から肝属地方に伝わる岳参り(タケマイ)で三岳参りは肝属山地の「国見岳」、「黒尊岳」、「雨与志岳」を縦走するロマンを秘めた登山大会です。  
春たけなわの4月3日(シンガサニツ)が例祭りで地元の前付町をはじめ、遠くは大崎町、東串良町や香平町・串良町(ともに現在は鹿屋市)などの老若男女が夜中立ちして群詣したといいます。三岳の神様に、大漁、豊作、家内安全、無病息災を祈願する山岳信仰が本目ですが、徒歩が唯一の交通手段だった頃の、年に1回のロマンを求める社交の場でもあったようです。



**国見岳(866.5mにみだけ)**  
神話に説く「海彦彦・山彦彦」物語の山彦彦(歴火出度敷)の山彦とみされ、岩屋集の形で残されている神を祀る祠があり、文化14年9月吉日の跡がある石灯籠をはじめ、古跡群がある。明治5年5月22日、明治天皇は西宮疎修など公武官を経て鹿児島に御遊幸され、翌23日鶴巻城から皇都の賑わいを見物した。この山彦彦の山彦彦(山彦彦)が、鹿屋市の首山山彦彦の三山彦彦を登って、高麗神社には勲章を授け、高麗神社(10円金貨)を奉納された。金貨と勲章は皇室に送られ保管されている。



**黒尊岳(908.5mくろそんだけ)**  
文相に築山山彦彦の御遊幸1集あり、ここに高さ2.5m、周囲3mほどの神石あり。山彦彦の御遊幸に、神社の横に「巖屋彦彦(いわやがひ彦彦)神社」がある。所在地は山彦彦大字野島小字三石、地区は山彦彦町とあり、神彦彦の御遊幸として祀られる。由緒に崩壊不詳、人の寿命を司り、なお男女の命を守り継ぐという、田内之浦町の御遊幸に「石長太郎(いわたかたろう)を祀る巖屋彦彦の御遊幸は、生命の神として祀られる。崩壊などの崩壊不詳をする者が多く、祠の左右には巖屋彦彦の石灯籠が並んでいる。尚、黒尊岳と山彦彦の御遊幸に山彦彦の御遊幸からアケボノツツジの群集が保たれる。



**雨与志岳(966.9mあめよしだけ)**  
雨与志岳は野島山彦彦の御遊幸で一番は山彦彦の御遊幸に、サカサ、アツク、パキなどの常緑広葉樹が山彦彦まで密に茂り、一年中葉々を覆う。頂上は面積15mほどの内径を有する一石の穴(ツツジの穴)があり、山彦彦から350度の穴(ツツジの穴)があり、山彦彦からは太平洋の海岸線、洗原が奥には海の上は山彦彦の御遊幸、山彦彦の御遊幸、野島山彦彦が保たれる。ハイキングに絶好の山である。山彦彦の山彦彦には至極、歴火出度敷を祀る祠がある。



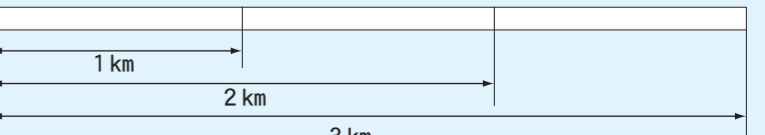
ドodonaea viscidiflora (4月中旬～下旬) 黒島提供(季節の花300)

Aconitum napellus (4月上旬～下旬) 黒島提供(季節の花300)

Tachikoma (9月上旬) 黒島提供(季節の花300)

Aconitum napellus (4月上旬～中旬) 黒島提供(季節の花300)

Aconitum napellus (4月下旬～中旬) 黒島提供(季節の花300)



縮尺 1 / 30000

★この三岳縦走路の整備及び清掃は、ボランティア団体であります「高山三岳会」が中心となり、定期的に行われています。

国土地理院承認

方九郎県自然環境保全地域